

OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

ひとめでわかる！

2025年 大阪・関西万博

2025年大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに、「人間のいのち」「地球のいのち」をめぐる未来社会のありようを展望する場として構想されている。

いままさに、世界中の人々の「いのち」が、新型コロナウイルスや気候変動という脅威にさらされている。こうした危機を脱するには、最先端技術をはじめ世界中から知恵を出し合い、さまざまなソリューションを提示するなど、「共に創っていく」ことが重要となる。

そこで、本特集では、「共創」の観点から多角的に本万博の特徴や全体像を概観する。そのうえで、その実現に携わる政府・地方自治体・経済界の取り組みを紹介するとともに、関係者の熱い思いを伝える。



開催概要

開催期間 2025年4月13日(日)～10月13日(月)

開催場所 大阪 ^{ゆめしま} 夢洲 (大阪市此花区)

テーマ いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

コンセプト People's Living Lab
未来社会の実験場

想定来場者数 約2,820万人



会場デザインのコンセプト

「世界とつながる海と空に囲まれた万博」
というイメージのもと、非中心・離散の
理念により多様性を保ちながら、リング
状の大屋根によってつながりを持たせ
たデザインを実現。



会場デザインについての
動画は、左記QRコード
よりご覧ください。



会場デザインプロデューサー
藤本 社介 (建築家)



会場運営プロデューサー
石川 勝 (プランナー、プロデューサー)



新たな「未来社会」の実現に向けて種を蒔く

日本経済団体連合会会長
2025年日本国際博覧会協会会長

十倉 雅和

大阪・関西万博の開幕まで残すところあと3年となりました。これまで、万博の開催・成功に向けてご尽力されてきたご関係の皆様改めて心より敬意を表します。

パートナーの輪を広げ 万博を成功に導きたい

2018年11月に大阪・関西への誘致が実現して以降、2019年1月には運営主体である2025年日本国際博覧会協会が発足、その後、会場デザインや運営、テーマ事業において、各分野でわが国のトップランナーである方々がプロデューサーに就任されるとともに、ロゴマークも決定し、いよいよ来年にはパビリオン等の建設が着工する運びとなっております。本年1月には、私も会場予定地である夢洲を視察いたしました。会場や交通アクセスの整備状況をこの目で見、2025年4月の開幕に向けた準備

が着々と進んでいることを改めて実感いたしました。今後もさらに多くの方々と連携・協力しながら、2020年東京オリンピック・パラリンピックに続く国家的イベントとして、パートナーの輪を広げ、皆様と一緒に万博を成功に導いていきたいと思えます。

企業に求められる「より良き社会」の実現模索の姿勢

今回の2025年大阪・関西万博は、経団連が唱える「Society 5.0 for SDGs」の実現に向けた強力なドライバーグフォースとなるものです。私は昨年6月の経団連会長就任以来、Society 5.0 for SDGsならびに「サステイナブルな資本主義の実現」を掲げつつ、市場経済の中に社会性の視座 (from the social point of view) を取り入れることの重要性を申し上げてまいりました。

行き過ぎた資本主義による格差の拡大や

生態系の崩壊等の問題が顕在化するなか、企業には、これまで以上に社会の一員であるという自覚を持ち、「より良き社会」の実現を模索していく姿勢が求められております。これはまさに、万博が目指す「未来社会」の姿と軌を一にしており、経団連会長ならびに2025年日本国際博覧会協会会長として強い使命感を持ち、万博の成功に向けて全力を尽くしてまいります。

開幕3年前という節目に改めて万博の開催意義に立ち返り、博覧会協会・政府・地元自治体・経済界、そして万博に参加される皆様とで心をひとつにし、わが国の成長につながる新しい「未来社会」の実現に向けた種を蒔き、芽吹かせてまいります。今回の特集を、3年後に大阪・関西を舞台に花開く多様な「共創」に思いを馳せながら、ぜひ一読いただければと思います。

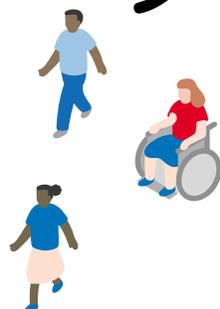


8つのシグネチャーパビリオン

「いのち」にまつわるテーマを表現

2025年大阪・関西万博のメインテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」をより有効なものとするために、本博覧会の中核事業となるのが「テーマ事業」である。

テーマ事業では「いのち」にまつわる8つのテーマが掲げられ、各界の最前線で活躍する8名の専門家がプロデューサーとして参加。会場内最大級の領域型パビリオンである「シグネチャーパビリオン」での展示や、リアルやバーチャルを織り交ぜたイベントといった多彩な手法を組み合わせ、創造力を主体とした事業構築方法（クリエイティブ・ドリブン）によって、多様な「いのち」を表現する。参加企業は各プロデューサーと共創しながら、「いのち輝く」とはどのようなものなのか、来場者が考えるためのリテラシーを提供していく。



私はあなた。私は地球。

I AM YOU



いのちの本質は「動的平衡」、常に入れ替わり欠けているものを補いながら変質していくことを表現するパビリオン。中を覗いた人が生き物の一部であることを体感できる「いのちの巣穴」をイメージした建築デザイン。世界中の博物館・科学館から100点以上の収蔵物を借り、全体が1つの生き物のような展示による「生命の塔」を目指す。坂本龍一氏がホログラム映像で出演するコンサートも予定。

『いのちを知る』

SHIN-ICHI FUKUOKA

福岡 伸一 生物学者、青山学院大学教授

『いのちを育む』

SHOJI KAWAMORI

河森 正治 アニメーション監督、メカニックデザイナー

今この瞬間、地球上で生きることの奇跡を感動的に共有したいという思いを反映したパビリオン。世界各地からライブ映像を集め、同じ瞬間に地球上で起こっていることをリアルに体感できる展示を目指す。漁礁を使用した建築デザインは、プロトタイプを会期前に海に沈め、成長をライブ配信する。プロジェクトの成果である映像アーカイブや通信基盤などの資産は会期後にも有効活用していく。

今、ここに共に生きる奇跡



“わたし”の中の

“あなた”を知る旅



©LESLIE KEE

いのちを守るために必要なのは、人の心や自然への深い理解という思いに基づいたパビリオンでは、河瀬氏が映画を作る際に重視する「記憶」がテーマ。製材前の様々な形の木材が互いに支え合う建築デザインで、個性が集まり全体を作ること表現する。記憶にちなんで、思いを刻んだ木筒を埋める「木筒タイムマシン」も検討中。映画祭や映画ワークショップも開催し、映画文化を未来につなげる計画も。

『いのちを守る』

NAOMI KAWASE

河瀬 直美 映画監督

『いのちをつむぐ』

KUNDO KOYAMA

小山 薫堂 放送作家、脚本家

「人」を「良く」という文字から成る「食」を考え直す場とするパビリオン。「グロサリーゾーン」の仮想スーパーマーケットでの買い物行動から未来の食について考える。「ダイニングゾーン」で巨大なテーブルを囲み、異なる食文化の人と「いただきます」という感謝の言葉を共通言語に、一緒に食べる楽しさを共有する。世界中の料理人が食で課題を解決するイベントや、未来に残すべき料理レシピのデータ化・共有も予定。

持続可能な社会の実現に向けて

食の「当たり前」をリセットし、

食べることの未来を見つめ直す場所。



『いのちを拡げる』

HIROSHI ISHIGURO

技術と融合することにより、

いのちの可能性を拡げる

石黒 浩 大阪大学教授、ATR 石黒浩特別研究所客員所長



技術によって人間の生物としての制約を取り払うことができれば、さらにいのちは多様化し、体力的・能力的に差別のない明るい未来が広がる。こうした思いを反映したパビリオンでは、ライフステージごとに様々な技術が作り出す新しい生活や、1000年先の人間のいのちに関する展示を構想中。物理・仮想会場どちらにも世界中からアバターとして参加可能。アンドロイドを用いたオペラも開催予定。



『いのちを高める』

SACHIKO NAKAJIMA

中島 さち子 音楽家、数学研究者、STEAM 教育家

遊び心と創造性が引き出されたら人生はこんなに面白い、との思いを来場者と共有。会期前からはじまる「未来の地球学校」ではSTEAM教育を推進し、万博会場・会期を超えた探究共創ネットワークを実現。インタラクティブな遊びをベースにした新しい教育を世界中の人たちと共有し、地球全体を学校化する。クラゲを建築デザインに取り入れたパビリオン内にはシンボルとして「創造の樹」を立てる。



PLAYFUL LIVES !

いのちが踊る、いのちが歌う、いのちがひらく。

生きている！という感覚の発露

『いのちを磨く』

YOICHI OCHIAI

落合 陽一 メディアアーティスト

デジタルヒューマンという新しい身体の写し鏡、

変形構造体建築による新しい風景の鏡、

デジタルとフィジカル2つの鏡を通じて磨き輝く命の形を示す



© 蛸川実花

未知の風景、未知の体験をもたらす人類未踏の変形建築によって、デジタルヒューマンの拠点となるパビリオンを構成。デジタルとフィジカル2つの鏡を通して磨き輝く命の形を表現する。新しい表現や建築の可能性を示し、文化や風景を非連続に発展させる絶好の機会である万博にて、デジタルと自然が調和する新しい芸術の形を届ける。会期後も持続的に価値を生み出す事業で人類の進歩や文化的な成熟に貢献する。

『いのちを響き合わせる』

HIROAKI MIYATA

宮田 裕章 慶應義塾大学教授

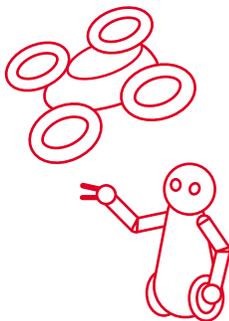
リアル会場ではファインアートを用い、いのちの輝きによる共鳴を直感的に伝える。バーチャル会場では、来場者のデータや自然データを相互に連携させデータ共鳴社会の具体的な実践を試みる。建築デザインはデータでつながった内のような外のような空間を表現する。各種データが連携したバーチャルコンテンツや、行動データや自然環境に合わせて適切な時間・場所にイベントを出現させる未来のイベントも。

Better Co-being



スマートモビリティ万博

万博の各種モビリティにEVやFCV等の次世代モビリティやMaaS等のシステムを導入し、スマートモビリティを推進する。運搬・清掃においてはロボットを活用し、ロボット社会が実装された姿を示す。電動車の活用でゼロエミッション化に向けた取り組みを進める。また会場内に専用の離発着エリアを設け、空飛ぶクルマで会場内外の移動や遊覧飛行を実施。



デジタル万博

来場者・関係者向けに次世代の情報通信サービスを提供。ストレスなくデジタルツールを使用できる通信環境とともに、来場者がスムーズに会場を回遊できるスマート体験を実現。進化した自動翻訳システムで言葉の壁をなくす。

バーチャル万博

リアル会場でのXR演出、世界各地からアバターとして参加できるバーチャル会場、オンライン空間上のサイバー万博など、バーチャルとリアルのデジタルツインによって時間と空間の制約がなくなった未来社会を体感する場を提供。

アート万博

ショーやインスタレーション、プロジェクションマッピング、パフォーマンスなどで本博の3つのサブテーマ「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」を表現するための事業。企業の参加を得て実施する。

グリーン万博

再生可能エネルギーや新たな発電技術など、環境に配慮した先進型の技術を導入することで、カーボン・ニュートラル、脱炭素社会を体現する万博を実現する。EXPO 2025 グリーンビジョンに記載の技術を検討する。

フューチャーライフ万博

多様な参加者との共創によって、フューチャーライフパークを拠点に未来の都市・住宅、未来のヘルスケア技術、未来の食、未来への行動などを集積。未来の街を創り上げ、Society5.0が実現する未来社会を描き出す。SDGsの達成とその先に向けた取り組みを発信する「TEAM EXPO2025ベストプラクティス展示」も。



6つの切り口から会場を 未来社会のショーケースに見立てる

本博のコンセプト「未来社会の実験場」を象徴するのが未来社会ショーケース事業だ。次世代技術・社会システムの実証と、2025年の万博にふさわしい先端技術・社会システムの実装によって未来社会の一端を提示する。



過去と未来の共創

万博の変遷と意義

「人類の進歩と調和」から「いのち輝く未来社会のデザイン」へ



万博は、時代に合わせてその様相を変えながら、人類の進歩や将来ビジョンを示すことで、160年以上にわたり、人類における変化の意義への理解を助け、世界が直面する難題解決への針路を示してきた。「人類の進歩と調和」をテーマにアジア初開催となった1970年大阪万博、「自然と人間との共生」をテーマにした1990年国際花と緑の博覧会、「自然の叡智」をテーマにした2005年愛・地球博等、これまでの万博はその時代の課題に向き合い、世界とともに解決を目指してきた。

2025年大阪・関西万博は、COVID-19

Column1

1970年「生命の樹」→2005年「いのちの輝き」
1970年大阪万博の「太陽の塔」の内部には、高さ約41メートルの「生命の樹」が展示されている。岡本太郎が、アメーバなどの原生生物から人類に至るまでの生命の進化の過程を表現したものだ。岡本の強烈な「人の生命」への思いを引き継ぐかたちで、2025年大阪・関西万博では、8人のテーマ事業プロデューサーが、「いのちの輝き」を表現していく。

1964年	東京オリンピック・パラリンピック
1970年	大阪万博
1975年	沖縄海洋博
1985年	つくば博
1990年	大阪園芸博
2005年	愛・地球博
2019年	ラグビーワールドカップ
2021年	東京オリンピック・パラリンピック
2025年	大阪・関西万博

万博を世界・日本・地域・企業の次の時代をつくるきっかけに

東京オリパラ後の国家事業である大阪・関西万博の成功に向け、オールジャパンの体制で取り組む

Column2

1970年「技術がもたらす豊かな明日」
↓
2025年「イノクルーシブな運営」
1970年大阪万博では、当時の最先端技術の展示が強烈なインパクトを与えた。2025年万博では、カーボンニュートラルに資する技術やデジタル技術の実装で、温暖化ガス排出量実質ゼロや待たない万博に挑戦。様々な世代、属性のアンダントなど、多様な人たちが関わるイノクルーシブな万博を目指す。

を乗り越えた先の、新たな時代に向けた国家プロジェクトである。SDGs達成に向けた進捗状況を確認し、その達成に向けた取り組みを加速させる絶好の機会となる。同時に、中長期的な視野を持って未来社会を考えることを通じて、その先(+Beyond)に向けた姿が示されることも期待される。

転換期ともなるこの時代において、万博という場で世界が一つとなることに意義があり、いのち輝く未来社会のありようを共有することは、2025年以後の世界の新たな一歩となる。

グローバルな共創

世界中の人とつながる インクルーシブな万博の実現

SDGs達成後の 未来社会の姿を描く



世界中の人々が参加し人類共通の課題を解決する場である万博では、世界との共創も重要な課題である。本博でのグローバルな共創を象徴するのが会場デザインだ。会場内には本博の3つのサブテーマ「Saving Lives (いのちを救う)」「Empowering Lives (いのちに力を与える)」「Connecting Lives (いのちをつなぐ)」に対応したゾーンを設定し、各ゾーンに世界各国の公式参加者(参加国や国際

機関)のパビリオンを配置する。公式参加者はそれぞれの立場からSDGs達成に向けた取り組みを持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会の姿を描く。最終的に150カ国、25機関の公式参加を目指す。

デジタルツインにより 世界中から参加できる万博へ

本博では、最新のICTを駆使して時間と空間の制約をなくし世界中からの参加を促す。その一つがバーチャル万博だ。デジタルツインの会場を3DCGでオンライン空間上に再現し、アバターで参加可能に。国外や遠方の人、障がい者、高齢者など会場に行きたくても来場がかなわない人たちが参加できるインクルーシブな万博を実現する。

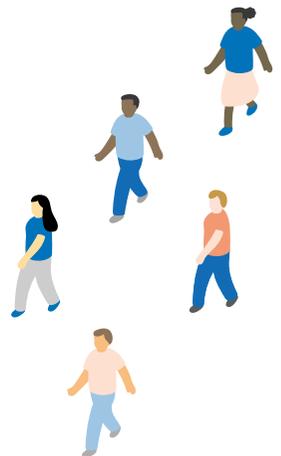


外務省WEB

フランス、英国、米国といったG20参加国をはじめ、世界中の国・国際機関から公式な参加表明が続々と集まりつつある。



提供：2025年日本国際博覧会協会



参加要領

パビリオン出展 <small>(敷地渡し方式)</small> 建ぺい率70%以下(原則) 高さ制限12m以下程度 敷地面積約3,500㎡(9区画程度) 一部を共同館とする場合も想定	テーマ事業協賛 主催者が企画するテーマ事業に協賛社として参加 設備・サービス提供 資金協賛	
未来社会ショーケース事業参加 企業・団体が持つ先端技術やシステムを用いて、会場内での実証や実装を行う	「TEAM EXPO 2025」プログラム参加 会期前より2025年に向けてテーマの実現を目指して共創する取組への参加及び協賛 テーマ実現に向けた活動の創出・支援 資金協賛	
催事参加 主催者催事への協賛又は参加催事の持ち込み 資金協賛 催事プログラムの持ち込み	営業参加 物販・飲食・サービスによる参加 会場内営業施設出店 ライセンスビジネス参加	その他 会場建設費への寄付 施設提供・貸与 広報参加 運営参加

2025年大阪・関西万博は、様々な企業団体が参加できるよう、パビリオン出展、テーマ事業協賛、未来社会ショーケース事業への参加、催事参加など、多様な参加の枠組みを計画している。

催事の枠組みは、参加催事以外にも、開会式などの公式行事や主催者と協賛企業等の共創で行う主催者催事などが含まれ、非常に幅が広い。今後、様々な催事の構想や

今後のスケジュール

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度
	2月	3月	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
各国への参加招請	ドバイ万博		各国への参加招請・途上国支援メニュー策定他						
パビリオン出展	基本計画策定 基本設計・実施設計				建設工事・展示物設置				
テーマ事業	基本計画策定				工事				
未来社会ショーケース事業	スマートモビリティ万博	事業スキーム決定	2次募集	参加企業調整 開発・実証実験等			開幕準備		
	デジタル万博	事業スキーム決定	2次募集	開発・実証・工事			運営保守		
	バーチャル万博	基本計画/実施設計			制作/施工/テスト			バーチャル万博開催	
	アート万博	2次募集	参加企業決定 企画公募選定		制作/施工/テスト				
	グリーン万博	プロジェクトに向けた検討 参加企業調整、開発・実証実験等			開幕準備				
	フューチャーライフ万博	2次募集		参加企業調整 開発・実証実験等			開幕準備		
機運盛り上げ	「TEAM EXPO 2025」プログラム、教育プログラム他				入場券前売販売開始 ベストプラクティス選定				

大阪・関西万博



催事企画プロデューサー
小橋賢児
(クリエイティブディレクター)



参加メニューの詳細については、上記ウェブサイトからご確認ください。

編成方針、スケジュール等を公表していく。ぜひ多くの企業・団体に協賛いただき、会場に賑わいを作り出していきたい。

寄付へのご協力をお願い

大阪・関西万博の成功に向け、2025年日本国際博覧会協会を中心に、政府、地元自治体、経済界等が一体となってオールジャパンの体制で準備を進めてまいります。

なかでも、万博の会場建設にかかる費用1850億円については、3分の1にあたる617億円を民間資金等で調達することとしており、博覧会協会では、財務委員会(國部 毅委員長)の下、広く経済界に支援を呼び掛けております。今後、万博開催に向けた準備の本格化に伴う資金の確保にあたり、皆様の一層のお力添えを賜りたく、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

寄付金に関する詳細については、以下のQRコードをご参照いただければ幸いです。



(寄付のお手続きに関する問い合わせ先)

2025年日本国際博覧会協会 総務局 財務部
 〒559-1003 大阪府大阪市住之江区南港北1丁目14-16 大阪府咲洲庁舎43階
 e-mail: donate@expo2025.or.jp

(本件に関する問い合わせ先)
 日本経済団体連合会 総務本部
 〒100-8188 東京都千代田区大手町1丁目3-2
 e-mail: expo2025@keidanen.or.jp

2025年開幕時の姿を想像して準備を本格化・加速化する

石毛 博行

2025年日本国際博覧会協会事務総長

4月13日、いよいよ万博開幕3年前となる。2025年の開幕時の姿を想像して準備を本格化・加速化する。日本全国はもちろん、世界中で2025年大阪・関西万博への関心を高める。この1年間には万博の成否を決める年である。

ビジネスの関心を引き付けたドバイ博

昨年10月から本年3月まで、コロナ禍の影響で1年遅れのドバイ博が開催された。私も1月にドバイ博に行き、大変刺激を受けた。会場の規模、建築物、イベントの豪華さに圧倒される。ドバイを『物流』のハブから『知』のハブへ変える。徹底した感染対策。主催者の覚悟を感じた。更に印象に残ったのは万博でのビジネスへの取り組み。ドバイ博には、フランスのマクロン大統領、韓国の文大統領が訪問するなど、各国首脳の経済外交も活発に展開された。パビリオンには一般来場者向けの展示だけでなく、商談用の会

議室やレストランも備えられていた。また、宇宙、水、自然災害、健康など世界の課題を議論する「テーマウィーク」が、世界中のビジネスパーソンが参加して開催されていた。ドバイ博はビジネスの関心を引き付けた。

引き継がれた万博旗

―2025年に向けて機運を盛り上げるには

3月末に万博の旗は、UAE/ドバイから日本/大阪・関西へ引き継がれた。各国の眼がドバイから大阪・関西へ向かう。日本はこれまで5回の万博を成功させてきた。各国の期待は大きい。50以上の独立の各国パビリオンができる。日本の万博は、参加各国のパビリオンだけでなく、企業パビリオンが来場者の人気の的。「万博の華」と言われてきた。今年2月企業パビリオンを建設する13の企業・団体を公表し、万博のテーマ事業「いのちの輝きプロジェクト」の協賛企業も

発表。更に多くの企業が協賛する予定である。この万博は『未来社会の実験場』となる。企業の皆さんとともに、モビリティ、デジタル、バーチャル、グリーンなどに挑戦して未来社会の姿を示す。ロゴマークやキャラクターも活用しながら、2025年の開催に向けて機運を盛り上げる。

コロナ禍を経て、2025年大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の意義が、更に高まった。コロナ禍による分断を克服して世界中の人々が共創する「場」となる。直面する地球規模の課題に挑戦する「場」となる。その皆が集い、交流する「場」を提供するのが主催国の大きな役割だ。この万博の「場」で世界中から集う皆さんと一緒に「いのち輝く未来社会」をつくっていききたい。

